

A Window open to the World

2026.3
vol.17

受入交換留学生 活動レポート 2025年度の受入交換留学生の活動を紹介します

受入交換留学生

2025年度は、前期7名、後期9名の交換留学生在籍しました。半年または1年間、「日本語」「日本事情」の授業を毎日受講したほか、日本語能力に応じて学部の開講科目を受講する留学生もいました。学部の履修科目を選択する際やインターンシップへの参加などは、事前に留学生教育コーディネーターの先生方と相談して決定します。また、来日時は椋大生やスタッフが寮の周辺案内や銀行口座の開設にも同行します。授業はもちろん、日常生活においても少人数ならではのきめ細やかな支援が受けられることが、椋山女学園大学の大きな魅力です。こうした手厚い支援は、留学生からも好評を得ています。

前期		後期	
アメリカ	2名	台湾	1名
韓国	2名	韓国	5名
韓国(2024年後期から継続)	3名	タイ	2名
		韓国(2025年前期から継続)	1名



授業紹介

受入交換留学生は、月曜日から金曜日まで、毎日、日本語の授業(文法、語彙・表現、読解、聴解、会話)を受講します。日本語の授業はElementary、Intermediate、Pre-advancedの3レベルから年度の始めのプレースメントテストでクラスを決定します。

日本語科目に加えて、日本の文化や社会について学ぶ「日本事情」の科目では、三味線・浴衣の着付けや書道、茶道、歌舞伎鑑賞などの文化体験を取り入れた授業を行いました。また、さまざまな学部の教員がオムニバス形式で登壇し、それぞれの専門分野から日本社会や文化について分かりやすく紹介しました。

このほか、所定の日本語能力要件を満たした受入交換留学生は、学部で開講されている「伝統衣服実習」「福祉環境デザイン論」「広報・宣伝論」「国際経営論」など、各自の関心に応じた授業を履修しました。



学外研修

犬山 INUYAMA



前期は犬山(愛知県)、後期は馬籠(岐阜県)で、椋大生も同行して学外研修を実施しました。研修では、グループワークを通して交流を深めながら地域の文化や歴史について学びました。

犬山では、国宝・犬山城の天守から濃尾平野を一望し、城下町の散策や食べ歩き、祭りの山車やからくり、城や城下町の歴史を伝える博物館を見学しました。馬籠では、宿場町の町並みを歩き、その成り立ちや歴史、ゆかりのある人物について学びました。さらに、そば打ち体験や郷土の食べ物を味わい、日本の食文化への理解を深めました。いずれの研修も、留学生と椋大生が体験を共にし、意見を交わしながら地域の魅力を五感で楽しむ、学びの多い学外研修となりました。

馬籠 MAGOME



広がる交流、つながる地域

交換留学生は大学の外でも交流の機会があります。椋山女学園の中学生・高校生との交流会では、日本語や留学生の母語を交えながら、会話やゲームを楽しみました。最後は、国ごとにじゃんけんの呼び名や手の出し方を紹介し、遊びを通して各国の文化への理解を深めました。生徒たちにとっても、思い出に残る楽しいひとときとなりました。

地域の国際交流協会の協力を得て実施するホームステイ(ホームビジット)では、ホストファミリーの家庭で一日を過ごし、浴衣を着せてもらったり、抹茶を立てたりと、日本文化に触れる体験をした留学生もいました。一方で、ホストファミリーと一緒に料理をしたり、地元の喫茶店を訪れたり、日本のごく普通の家庭での生活を味わった留学生もいました。お風呂や住宅の造りといった日本ならではの住環境に関心を寄せるなど、それぞれが思い思いの形で日本の暮らしを体験しました。

椋中高との交流



ホームステイ/ビジット



[Center News Digest]

2025年度の主な出来事をご紹介します

Pick up 留学生の挑戦



提供元:一般財団法人国際教育振興会



ソウル女子大学校(韓国)からの交換留学生チョン ユジンさんが、「第64回外国人による日本語弁論大会」(主催:国際教育振興会・国際交流基金・東京都昭島市)本選に出場しました。今回の大会は全国から75名の応募があり、ユジンさんは選抜された12名の1人として出場しました。

「魔法の湯けむり」をテーマに、韓国と日本の入浴文化の違いやそこで得た気づきをユーモアも交えて堂々と披露しました。他大学の参加者との交流を通して多くの学びを得るとともに、その挑戦する姿は、楡山で共に学ぶ交換留学生にとっても良い刺激となりました。

また、ユジンさんは大学に隣接する商業施設で毎年恒例となっている「ウインターイルミネーション」企画にも参加し、生活環境デザイン学科の学生とともにミニチュアハウスを制作。

完成した作品は屋外のイルミネーション・ライトアップとして温かな存在感を放っていました。

留学という慣れない環境の中でも積極的に一歩を踏み出し、挑戦を続ける留学生の努力は、私たち周囲の人間にも多くの刺激と勇気を与えてくれました。



派遣交換留学生実績

協定校で学んだ学生たちは、外国語や専門分野について学びを深めたのはもちろんのこと、課外活動などにも積極的に参加し、多様な文化や価値観に触れ、柔軟な考え方を身につけて帰国しました。

前期	
タイ(2024年後期から継続)	1名
マレーシア(2024年後期から継続)	1名
後期	
オーストラリア	1名
韓国	1名

協定校との交流

●ケベック大学モントリオール校(カナダ)

教職員4名が学長を表敬訪問し、外国語学部にて留学紹介を行いました。2025年10月27日

●嶺東科技大学(台湾)

学生23名、教員2名のツアーで情報社会学部と星が丘キャンパスを見学しました。2025年10月29日

このほか、サザンクロス大学(オーストラリア)よりコーディネーター1名の訪問がありました。



受入交換留学だより 淑明女子大学校〈ノミニョンさん〉

2024年9月から2025年7月の10ヶ月間、淑明女子大学校からの交換留学生として楡山女学園大学に留学しました。

最初は日本語があまり上手ではありませんでしたが、楡山で授業を受けたり、日本語能力試験の勉強をしたりする中で、それまで自分で学んできたことや韓国での日本語授業では分からなかった微妙なニュアンスの差や、適切な単語の選択について知ることができて楽しかったです。また、留学しなかったら出会えなかったほかの学校や日本を含んだ外国の人と友達になり、一つの話題に関してさまざまな意見を交換した

ことも、とても有益な時間でした。初めての一人暮らしだったので心配でしたが、一人暮らしを通じて自分自身をもっと知ることができたと思います。

海外旅行で異文化を体験する方法もありますが、交換留学を通じて異文化をより深く感じ、ひいてはその文化の一員になれることは、単なる旅行では感じられない貴重な経験だと思います。特に楡山ではスタディメイトという制度で日本人の友達と1対1の関係でいろいろな話をしたり、日本文化を体験できたことが楽しかったです。

最後に、私の留学はもう修了しましたが、楡山で学んで、感じて、考えたことを大切な基盤とし、以前より一段成長した私でこれからの人生を歩んでいきたいと思っています。



留学生レポート 国際コミュニケーション学部〈榎原 彩花さん〉

Report

私は2025年2月から11月の9ヶ月間、オーストラリアのタスマニア大学へ交換留学しました。

最初の頃は、初めての環境に不安でいっぱいだと思うように行動できませんでした。しかし、一日一日できたことを糧に、明日も頑張ろうと過ごしたり、少し勇気を持って自分から周りに声をかけてみたりしたことで、タスマニアでの生活をより楽しめるようになりました。自分の在り方次第で状況を良く変えていけることを実感しました。授業でのディスカッションやグループワークでも徐々に発言できるようになり、他の受講生との交流を楽しめるようになりました。自分とは違う視点からの意見を知ることは刺激的で、充実した学びの時間でした。

大学や寮のあるホバートでは、人と自然が共存しており、私にとってとても心地よく、勉学に励むことができました。寮では、様々な国籍の人と友人になることができ、一緒に勉強したり、おしゃべりをしたり、外出したり、また、課題やテストで大変な時期は励まし合ったり…友人たちと過ごした日常の一つ一つが忘れられない思い出です。

この約一年間は、日本での学生生活だけでは経験できない、かけがえのない時間でした。多くの初めての経験を乗り越えられたことで、自分の可能性を広げることができました。これからも新しい世界に出会えるように頑張っていきたいと思っています。



スタディメイト・留学生サポーターズ

スタディメイトは、交換留学生と榎大生がペアとなり、言語や文化を教え合いながら留学生の学修を支援するボランティアのサポート制度です。ペア制のため、一人ひとりとじっくり関わることができ、留学期間中だけでなく、帰国後も交流が続くケースも見られます。榎大生にとっても、外国語や海外への関心を高めるきっかけとなるほか、日本語や日本文化を改めて見つめ直す機会となっています。また、相手に分かりやすく伝える工夫を重ねる中で、教え方やコミュニケーション力を学ぶ貴重な経験となっています。

留学生サポーターズは、学生ボランティアが中心となって季節のイベントや文化紹介などを企画・実施するサポート制度です。七夕やハロウィンランチ、スポーツイベント、クリスマスパーティーなど、年間を通じてさまざまな交流の場を設けています。

こうした取り組みを通じて、交換留学生が自然に榎大生と交流の輪を広げ、安心して日本での学生生活を送ることができるよう支援しています。



センター長からのメッセージ

国際交流センター長 田所 光男

現代では、確かに、AIが数秒で複数の言語の翻訳を提示し、またYouTubeを開ければ相手社会の裏側までのぞき込むことさえできます。もうわざわざ時間やお金をかけて外国に行くことなどあまり意味がないのかもしれない。しかしそれでも、みなさんが自らの生き生きとした知性と感情でつかむものは、みなさんにとってかけがえのない宝石になることなのでしょう。榎山女学園大学がみなさんに提供する大きなチャンスを存分に使って、私たちといっしょにここで素敵な時間を過ごしませんか。お待ちしております！

A Window Open to the World 榎山女学園大学国際交流センター報 第17号 2026.3

編集・発行 榎山女学園大学国際交流センター(CIEP)

〒464-8662 愛知県名古屋市千種区星が丘元町17番3号

〈TEL〉052-781-5674 〈FAX〉052-781-2038

〈URL〉<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/center/ciep/>



ホームページ



SUGIYAMA_CIEP
Instagram